

①学習の目標

鉛筆による表現の方法を学び、特徴や明暗を表そう！

②準備するもの

2B鉛筆、消しゴム、鉛筆削り、配布されたプリント

③学習の方法・手順

プリントの順番通りにやってみよう

④学習のポイント・取り組み方の例

プリント、教科書と「感じる表す美術」をよく見て、丁寧に取り組みましょう！
プリントに描く前に、自宅にある別の紙に試し描きしてみるのもいいですね！

プリントの④身の回りにある簡単な形を探して描こう について

- ・どこから光が当たっていてどこに影ができるか
（分かりにくい時は自分でライトを当ててみよう）
- ・描くものがかたいものなのか、やわらかいものなのか、それならどんなタッチにするか
（線を重ねて描こうかな、こすってみようかな）
- ・それらしさを出すには鉛筆をどのように動かして描くか
（丸いものなら曲線を重ねて描いてみようかな、板状のものならまっすぐの線を重ねてみようかな）

など、モチーフ（描くもの）をよく観察し、特徴や立体感を表すためにどう描くか考えることが大事！

①大まかな形でとらえよう、②明暗をつけて立体感を表そう、③タッチを工夫して質感を表そう、で学んだことを活かして取り組もう！

※授業で描き方や紹介したNHKの動画などを振り返ります。安心して、自宅に取り組んでください！

※鉛筆の使い方は美術においてとてもとても大切な「学び」です。評価にも入るので、全力で取り組もう！

⑤自己評価の仕方

- ・①～③がお手本と同じようにできたか振り返る。
- ・④で描いた絵に①～③で練習した明暗やタッチを活かし、特徴や立体感を表せたか、振り返る。

授業でも一緒に振り返りをします。しっかりと取り組んでおきましょう！